

《大学》

**兵庫県立大学**

**【途上型学生のための就業力強化プログラム】**

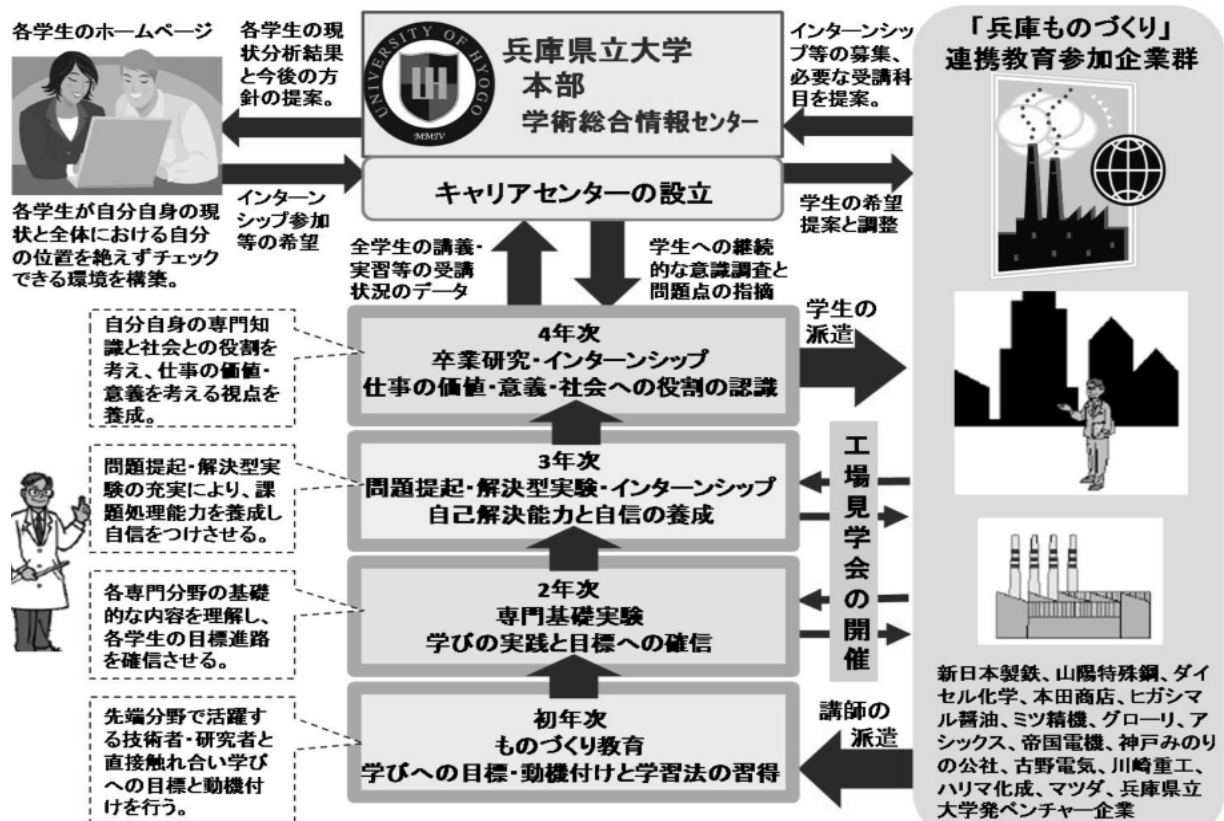
取組の概要【1ページ以内】

本学工学部では、かねてより、学生の「無気力化」と、物事を自分から考えようとしないう「指示待ちタイプ」の学生の増加が大きな問題となっており、その原因と実態を調査するため、2009年度より2年次および4年次の学生を主な対象として、「大学満足度アンケート」を継続的に実施してきた。本アンケートを解析した結果、学生の大学満足度が想像以上に悪いことが明らかになるとともに、本学部生の深刻な特徴が浮かび上がっている。

すなわち、本学部生の実に43%が、自分らしさや将来展望が見えておらず、精神的に幼い、いわゆる「途上型」学生と分類され、全国平均の約25%と比較して非常に大きな値を示していた。このような、自我・社会性の確立度が低い学生は、大学満足度に関して調査した全ての項目について非常に低い評価を下しており、本大学に対して大きな不満を持っていることが明らかである。「途上型」学生の行動特性は「私は誰、何処に行くの」といった自我・社会性が見えておらず、自分自身の意志や価値基準が漫然としており他者依存的である。これが、本学部生の自己概念形成や学びに向かう力、さらには就業力にも大きな影響を及ぼしていると考えられ、教育改革が必要とされる。

本プログラムでは、本学部生の43%を占める「途上型」学生を主な対象として、初年次に「学びへの目標・動機付け」教育を重点的に行う。このため、ものづくり連携教育企業を組織し共同講義等を充実させる。2・3年次に専門的知識・技術・問題の自己解決能力を身につけさせるため、学生実験・工場見学等の改善を図り、学生自身に誇りと自信をつけさせる。3・4年次に、当該連携教育企業を中心としたインターンシップ制度を取り入れ、「仕事の価値・意義・社会への役割」を認識させ、就業力の飛躍的向上を図る。

このような教育プログラムを支援するため、大学本部と連携して「キャリアセンター」の設立と高機能化を推進し、「ウェブサイト」を通して企業へのインターンシップ等の申し込みをいつでも可能とするキャリア支援体制を構築するとともに、学生各自のホームページを構築し、全学生の成績分布と個々の学生の成績とを比較した解析結果を明示する。また、ものづくり連携教育企業の協力により、目標企業への就職に必要な教科が目に見える形で表示・提案でき、かつ、学生の意見を収集できるプログラムを構築する。これら双方向情報システムは、学部間の枠組みを超えて全学部の学生を対象に構築し、各学部の学生の特徴を分析するとともに、将来の学部間連携による就業力強化対策を研究する。



《大学》

**奈良県立大学**

**【学生の夢と伴走するホームとなる体制づくり】**

取組の概要【1ページ以内】

本学は、建学精神に基づき「地域の未来をつくる人材」に必要な知識・創造力（発見力・企画力・実践力・協働力）を学士力と定め、観光産業や自治体の地域振興部などあらゆる領域に質の高い人材を輩出している。しかしながら、本学の就職実績を見ると、2つの課題が明らかである。第一に入学後の学生の進路希望変更である。古くは観光業が「地域づくり」を支えてきたが、近年は産業や人口構造の変化に伴い「地域づくり」が多様化してきている。これに伴い、本学入学後に進路を変更する学生が8割に昇り、自己特性・業界特性・職種特性を客観的に捉え、将来の進路を適確に選択できる就労支援環境の整備が急務である。第二に、就職率90%以上と公表しているが、4年次の秋ごろまでに採用が確定せず、留年を選択する学生を含めるとその割合は82.7%（**就労率**）となり、就職試験で不採用となり未就労に至る学生と合わせると21名が未就労者となる。根本的原因として、学生自身の進路選択の遅れ、これに伴う自己特性と職種特性のミスマッチ、及び就職試験への準備不足があげられる。こうした学生に対しては、それらの特性を踏まえ、自身の就労に対する考え方や将来像を的確に把握し、早期に指導する体制作りが不可欠である。

本取組では、卒業後の社会的・職業的自立化を目標とし、大学4年間で段階的な就業力育成を実現するため**教育課程を再編成**する（図1）。すなわち、就業力を育成する科目群を教育課程に配置し、個々の学生の就労観・職業選択・職業体験・将来設計という段階的なキャリア・デザインの構築を実現する。これにあたり、各年次での就業力習得目標を「就労を知る」「自己特性を知る」「自己適性を知る」「未来を描く」の4ステップと定め、一般教養・専門科目・創造力育成科目と相互連携しながら、段階的に就業力を育成する。本取組で確立するキャリア教育の特長は以下の3点である。

- （1）奈良県・産業界と連携したキャリア教育（**産学連携講座**）により幅広い進路を選択。
- （2）SPI・資格試験対策等の**キャリア育成eラーニング**により知識面の質を保証。
- （3）「キャリア・ノート」を学生が所持し、段階的な将来設計を実施。

また、本取組を推進するため、本学では既存組織（就職指導室、学生・就職委員会、教務部・教務委員会）の教員・職員、及び奈良県・産業界による「**就業力育成センター**」を新設し、個々の学生への指導環境を確立する。これにより、高い知識・教養、未来を切り拓く創造性、社会を発展させる自立性を備えた学生を輩出し、日本社会の持続的な「地域づくり」に貢献していく。

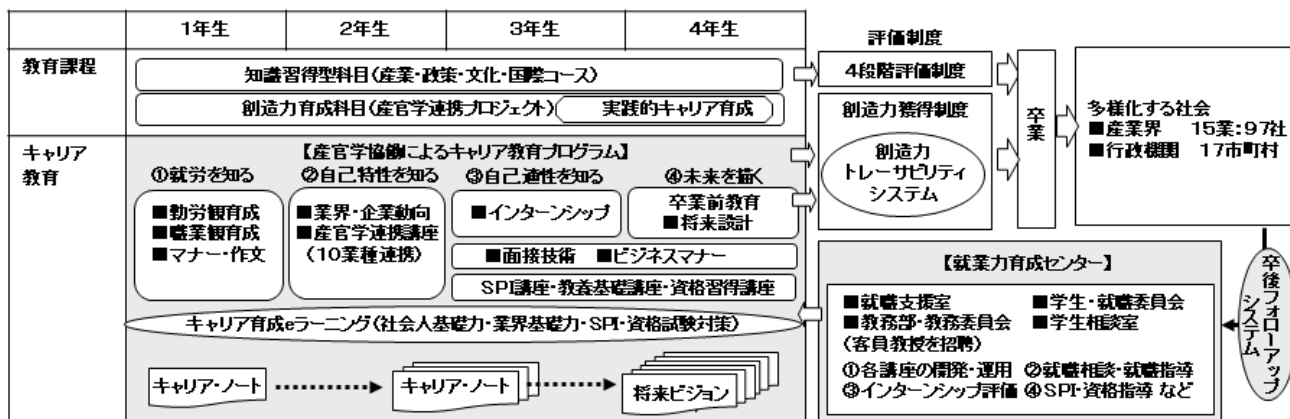


図1 本取組の概要

《大学》

**島根県立大学**

**【学修と就業の一貫性を構築するキャリア教育】**

## 取組の概要【1ページ以内】

本学は「大学憲章」に、地域の先人である西周が主張した「純理の学から実践の学にわたる諸科学の統合」を標榜して、大学での学修と卒業後の社会実践との一貫性を重視し、キャリア教育に力を注いできた。

平成19年キャリア教育と就業支援を一元化するためにキャリアセンターを設置した。教育面では「キャリア形成科目」を1・3年次の必修科目とすることを始め、体系的な学びを得る方策を採ってきた。一方就業支援は、様式3の「取組について」で詳述するように、立地の不利をカバーするための多様な方途を講じてきた。以上が相まって、過去3年間の就職率平均97%という成果を挙げた。

とはいえ、近年の厳しい経済状況に鑑み、現状の取り組みだけでは今後も高い就職率を維持することは困難であり、就業支援を強化することに加え、初年次から始まるキャリア教育の構築が課題である。そこで、以下の6つの新規事業に取り組む。初年次から地域の職業人と接し、自らの学習目的を明確化することで、自らが望んだ職業に就く能力を学生に身につけさせることが目的である。

### (1) 教育面の取組

- ①初年次必修の「フレッシュマン・セミナー」を改編し、秋学期新たに「フレッシュマン・フィールド・セミナー」を開講する。ここでは、少人数のグループで地域に出て地域の課題を発見する。これは学生が社会に触れ、職業人と接する中で、自らの学習目標を明確化し、主体的に将来像を描くことを目的とするものである。
- ②「初年次サポート制度」を構築する。優秀な先輩学生がピアサポーター（PS）として新生をサポートする態勢を作る。その目的は初年次生の基礎学力向上と、学習・就業目的意識の涵養にある。
- ③2・3年次の春季休業期に「海外企業研修」を正課外で実施する。現地企業や工場を訪問し、対象国独自の産業構造や社会構造に触れ、視野を拡大することが目的である。

### (2) 就業支援の取組

- ①2・3年次の「試験対策と資格取得支援」を強化する。企業独自の筆記試験やSPI対策（特に「非言語分野」）、また実践的な資格取得講座を正課外で開講する。就職試験における「実戦」的な能力を育成することが目的である。
- ②教育面の取り組みを就業支援に生かす「キャリアカウンセリング」を実施する。厳しい経済状況に直面し、就業活動に困難を抱え、様々な不安を訴えるような学生、あるいは就職活動を中断するなどの問題を抱える学生を支援することが目的である。
- ③「OB・企業調査」を実施する。卒業生が勤務する企業に調査員を派遣し、1) 卒業生の「就業満足度調査」、2) 卒業生に対する企業側の評価、3) 企業側が求める人材像等についてヒアリングを実施する。本学が実施してきたキャリア教育・就業支援の成果を検証するとともに、就業支援に調査結果をフィードバックすることが目的である。

《大学》

**岡山県立大学**

**【「デザイナーの卵」孵化推進教育プログラム】**

取組の概要【1 ページ以内】

現代におけるデザイナーの主な仕事は、企画構想・制作及び提案から成り立っている。

岡山県立大学デザイン学部は、学部生の将来像を現代的な意味での「企画提案力あるデザイナー」に置いている。これは実学教育と人間・自然・社会の関係性を重視する教育の融合をめざす本学理念に適うものである。そのため本学部では全学教育と学部教育を充実させ、知性と感性の両面から課題解決に臨む学生を育成している。その成果はデザイン工学科3コース（プロダクト・建築・情報）及び造形デザイン学科4コース（グラフィック・ITコンテンツ・セラミック・テキスタイル）の在学生・卒業生・教員による、産学・社会貢献分野の活動として蓄積されつつある。一方で学生の、就業力育成上の課題が以下の通りみられる。

（課題）

1. 社会的・職業的自立に向けた自己の成長を、初年次より確認できる取組が不十分である。
2. 学生による企画構想や提案を、地域に向けて組織的にアピールする仕組が不十分である。
3. 学生が協働と競争を通じてたくましく成長するための、カリキュラム開発が望まれる。

以上の課題解決に向け、本取組では以下の教育プログラムを、学部を挙げて推進する。

（課題解決をめざす本取組の概要）図1参照

1. 学部就業支援委員会の企画展開組織としてデザイナーの卵・孵化推進室を新設し、学生における作品や企画展開の記録と、活動の自己評価を収録したポートフォリオ連動型電子カルテの作成を支援、成長確認と相談のためのツールとして、これを活用する仕組を作る。
2. 学部就業支援委員会と学内外組織の連携により、4つの巣からなる産学官連携・デザイナーの巣づくりネットワークを構築する。デザイナーの卵・孵化推進室がその窓口となり、地域企業（県外を含む）・自治体における課題シーズや、企業等と共同開発課題に取り組む学生チームであるSPU（スモールプロジェクトユニット）活動に必要な情報を蓄積し活用する。
3. 学部では、現開講計画におけるコースデザイン実習に加えて、新たなカリキュラム開発を検討し、これらにSPU活動を組み込み、企業や自治体との課題共同開発からコンペ形式などによる企画提案活動までを後押しする。この活動における協働と競争を通じて、学生自らが課題発見力、チームワーク力及び企画提案力を育て、幅広いデザイン就業力を培うよう促す。

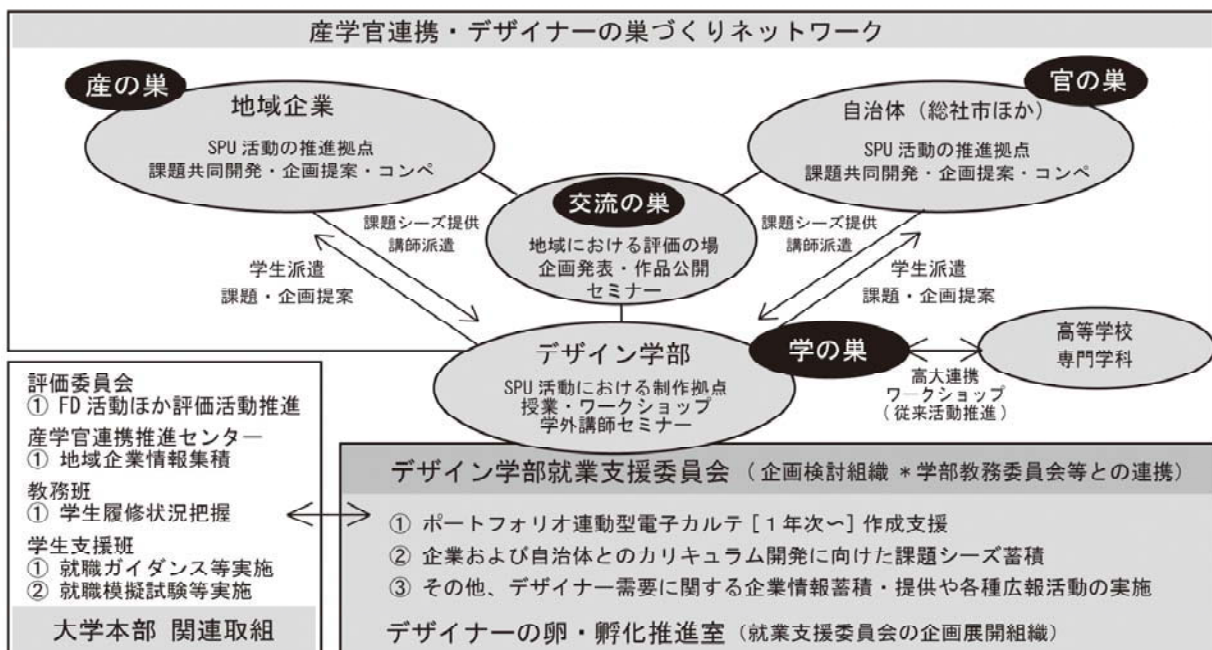


図1 取組組織および支援組織の連携（地域企業は県外も含む）



《大学》

**尾道大学**

**【無数のキャリア演習で無限の可能性を！】**

## 取組の概要【1ページ以内】

本取組は、既の実施しているキャリア教育に加え、新たに3つの柱からなるキャリア教育プロジェクトを導入し、入学から卒業までの間を通した全学的かつ体系的な指導を行う制度を構築するものである。地元企業との産学連携により、学生が社会に羽ばたくために必要な就業力を習得する教育システムを構築するところに特徴がある。

### <キャリア教育プロジェクトの3本柱>

#### 1. カフェテリア方式のキャリア演習

年間20社の企業経営者・創業者の特別講義を開催し、加えて、60社以上の企業メニューの中から原則自由に年間2社を選んで実際に訪問し企業体験・企業研究を行うことを目的とするカフェテリア方式のキャリア演習を大学の正規科目として新設する。

#### 2. キャリア・コミュニケーション科目群

就業力の基礎となる社会人・職業人として必要なコミュニケーション能力を開発するためのキャリア・コミュニケーション科目群を正規科目として新設する。具体的には、プレゼンテーション、ディベート、ヴォイス・トレーニング、ビジネス・ライティングなどの実践的かつアカデミックな科目により構成する科目群とする。

#### 3. 学生がつくる就業力情報サイト「尾大ジョブ」

学生自身が企業に出向き収集した企業情報や就職ニーズなどの情報を就業力情報として、インターネット上に学生主体の就業力情報データベースを整備する。単なる就職活動年次の学生のためのサイトとしてではなく、全学年が興味を持って読むことができるものにする。このサイトは地元高等学校にも公開し、必要に応じて、編集にあたった学生が高校を訪問して、高校生に対して「出前講義」の形で就業力についての講話も行う。

キャリア選択の可能性は無限！

就業力を身に付けた学生へ！

### プロジェクトの3本柱

1. カフェテリア方式のキャリア演習

特別講義、企業訪問

地元企業

2. キャリア・コミュニケーション科目群

学生の企業取材、高校訪問

地元高校

3. 学生がつくる就業力情報サイト「尾大ジョブ」

キャリア開発委員会

既存のプログラム

+

教養・専門教育科目

1. キャリア形成入門

2. インターンシップ

3. 卒業後に必要な基礎的能力の育成プロジェクト

4. 資格取得支援科目： TOEIC、ファイナンシャル・プランニング

チューター  
(教員)

進路支援センター

大学事務局

教務委員会